

2022年3月期 第1四半期 決算補足資料

2021年8月5日



ダイワボウホールディングス株式会社

(証券コード : 3107)

2022年3月期 第1四半期 (2021年4月1日～2021年6月30日)

不透明な市場環境において前年同期に近い水準で推移
当期から「収益認識に関する会計基準」を適用

ITインフラ流通事業

企業・官公庁向けはサブスクリプション型サービスの契約数が増加したが、全国的に大型案件が振るわずPC販売等は低調に推移
文教市場は前期からのGIGAスクール継続案件により販売拡大
コンシューマ向け市場は前期と比較してPC・周辺機器の販売が減少

繊維事業

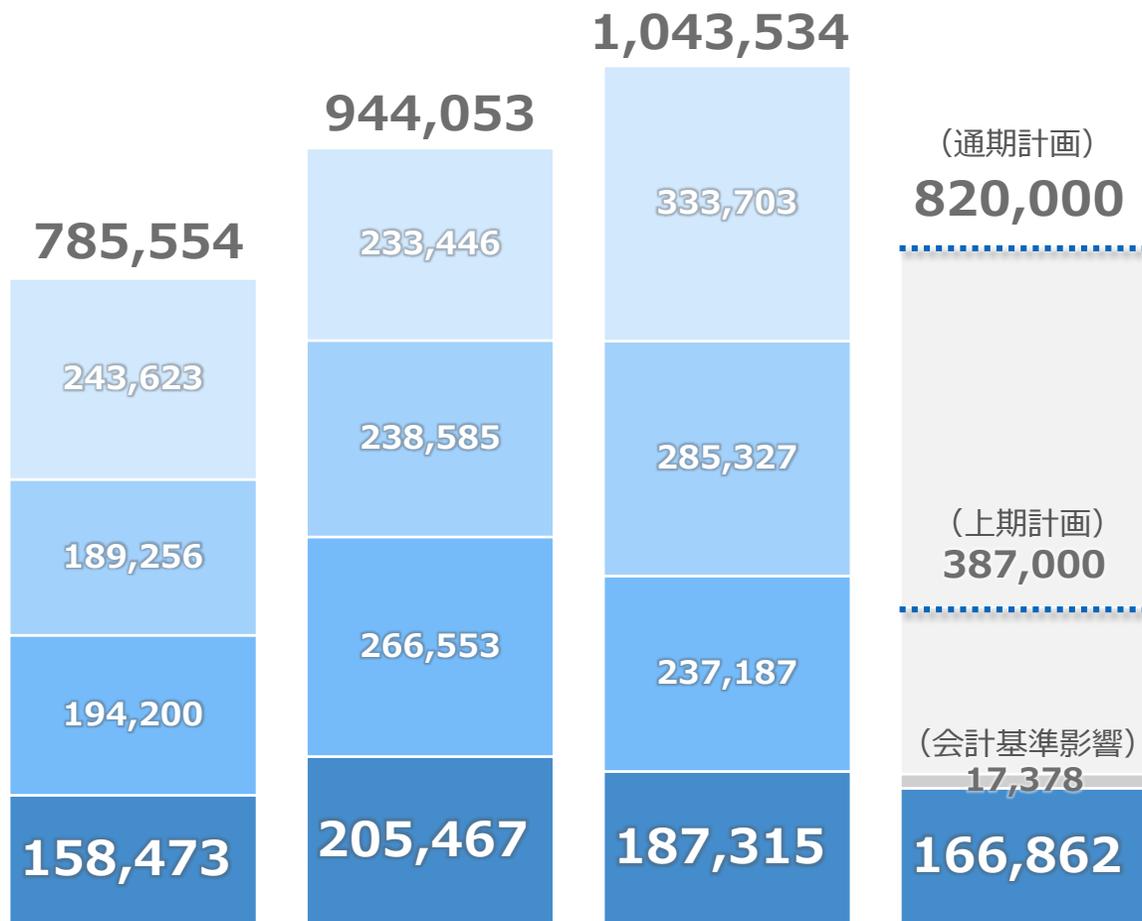
建材用などの合繊原綿や環境負荷の少ないレーヨンが好調だが、除菌関連需要の反動に加えて重布製品・衣料品等の販売が継続して低迷

産業機械事業

顧客における設備投資の停滞は継続しているものの、前期と比べて受注環境の回復が見られ、サービス売上も増加

2022年3月期 1Q累計 売上高

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



(百万円) 2019/3 2020/3 2021/3 2022/3

前年同期比 Δ **10.9%**

▶ 収益認識基準の影響額 **17,378**百万円

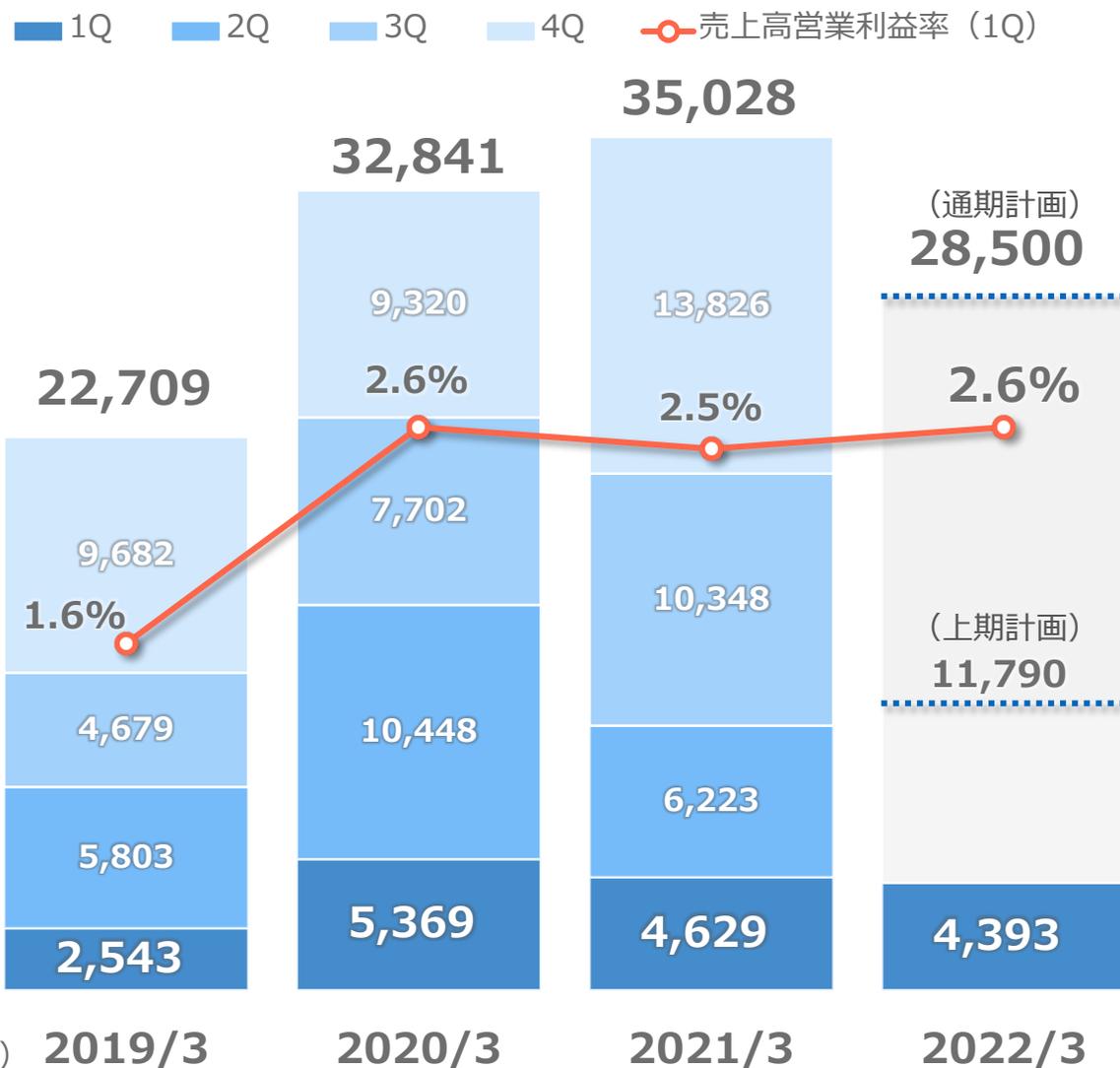
▶ 新基準比較 Δ **3.3%**

1Qとしては過去3番目の売上高

進捗率 上期 **43.1%** / 通期 **20.3%**

※「収益認識に関する会計基準」の適用についてはP6に記載しています。

2022年3月期 1Q累計 営業利益



前年同期比 Δ **5.1%**

営業利益率 **2.6%**

1Qとしては過去3番目の営業利益

進捗率 上期 **37.3%** / 通期 **15.4%**

2022年3月期 1Q累計 連結決算概況

(百万円)	2021/3 1Q	2022/3 1Q	増減	前期比	上期計画	進捗率
売上高	187,315	166,862	△20,452	△10.9%	387,000	43.1%
営業利益	4,629	4,393	△236	△5.1%	11,790	37.3%
経常利益	4,786	4,521	△265	△5.6%	11,800	38.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,290	3,114	△1,175	△27.4%	8,100	38.5%
1株当たり 四半期純利益 (円)	44.62	32.45				

(百万円)	2021/3	2021/6	増減	主な増減理由
総資産	383,757	326,387	△57,369	売上債権等の減少
純資産	129,322	125,726	△3,595	利益剰余金の減少
自己資本比率	33.4%	38.2%		

2022年3月期 通期業績予想

(百万円)	2021/3 (実績)		2022/3 (予想)		増減 (※)	前期比 (※)
	金額	率	金額	率		
売上高	1,043,534		820,000		△223,534	△21.4%
ITインフラ流通	969,748		742,000		△227,748	△23.5%
繊維	61,033		64,700		+3,666	+6.0%
産業機械	11,582		11,100		△482	△4.2%
営業利益	35,028	3.4%	28,500	3.5%	△6,531	△18.6%
ITインフラ流通	33,226	3.4%	24,400	3.3%	△8,826	△26.6%
繊維	1,350	2.2%	3,450	5.3%	+2,099	+155.5%
産業機械	537	4.6%	640	5.8%	+102	+19.0%
経常利益	35,781	3.4%	28,500	3.5%	△7,281	△20.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	25,715	2.5%	18,500	2.3%	△7,215	△28.1%

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」が適用されるため、当該基準に基づいた予想としております
増減および前期比については、会計基準の変更を考慮せずに単純に比較した参考値を記載しております

収益認識に関する会計基準の適用について

2022年3月期より企業会計基準第29号「**収益認識に関する会計基準**」が適用されるため、主にITインフラ流通事業の一部取引について売上高の計上方法が変更されます

		2021/3 (実績)	2022/3 (予想)	増減
(概算：億円)				
売上高	①旧基準	10,435	8,920	△1,515 △14.5%
	②新基準	-	8,200	
	②-①	-	△720	
営業利益		350	285	△65 △18.6%
営業利益率	①旧基準	3.4%	3.2%	
	②新基準	-	3.5%	

<主な変更点>

■ 代理人取引に係る収益認識

ITインフラ流通事業における**保守・保証サービス、ソフトウェア（継続課金等）販売**などの取引の一部について、販売先への商品・サービスの提供における当社の役割が、会計基準上の「**代理人**」に該当するため収益認識の方法を変更

【旧基準】：販売対価の**総額** (A) を売上計上



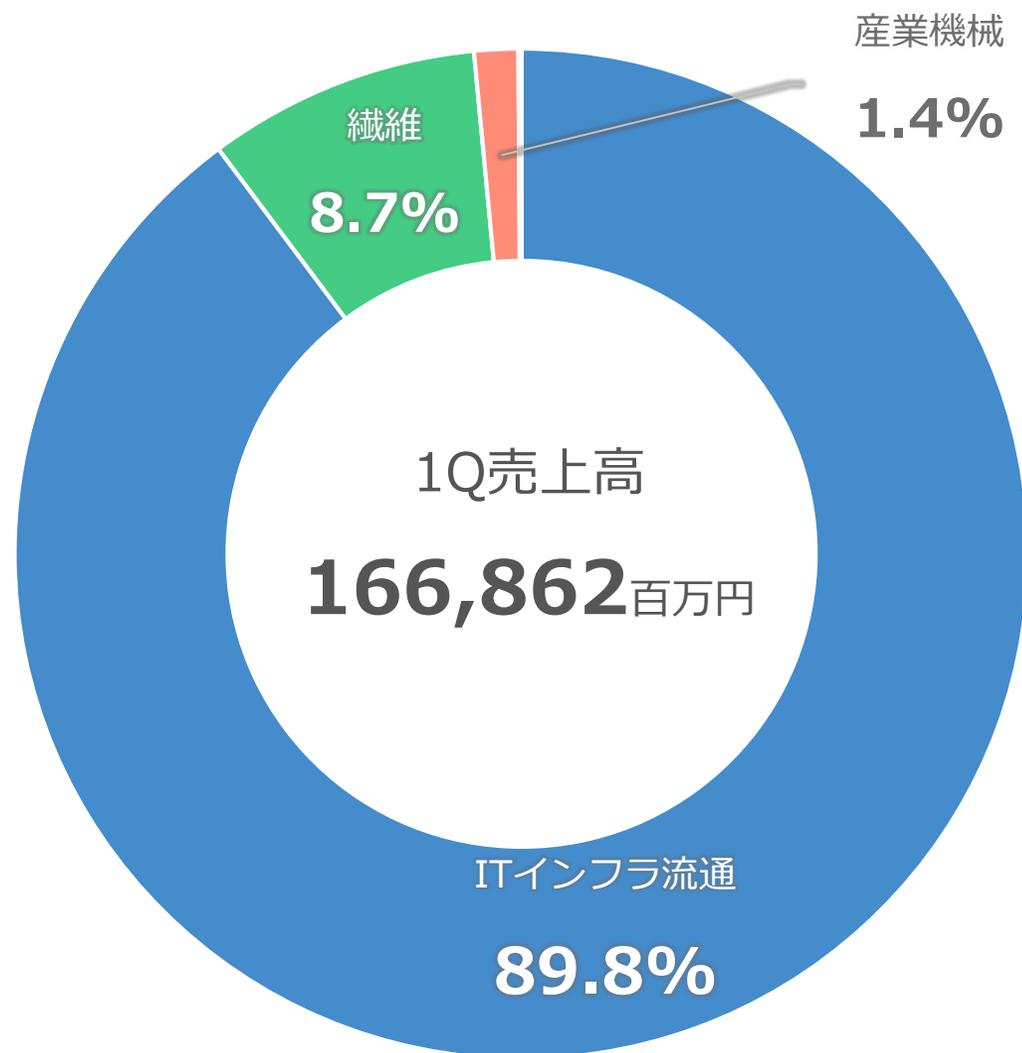
【新基準】：販売対価の**純額** (A-B) を売上計上



※ITインフラ流通事業における会計基準変更の影響額を一定条件に基づき試算した参考値です

2022年3月期 1Q累計 セグメント別業績

(百万円)		2021/3 1Q	2022/3 1Q	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	169,523	149,878	△19,644	△11.6%
	繊維	15,824	14,460	△1,364	△8.6%
	産業機械	1,783	2,333	+549	+30.8%
	その他	183	190	+6	+3.6%
	合計	187,315	166,862	△20,452	△10.9%
営業利益	ITインフラ流通	3,838	3,558	△280	△7.3%
	繊維	887	729	△158	△17.8%
	産業機械	△45	124	+169	-
	その他	△51	△19	+31	-
	(調整額)	0	0		
	合計	4,629	4,393	△236	△5.1%



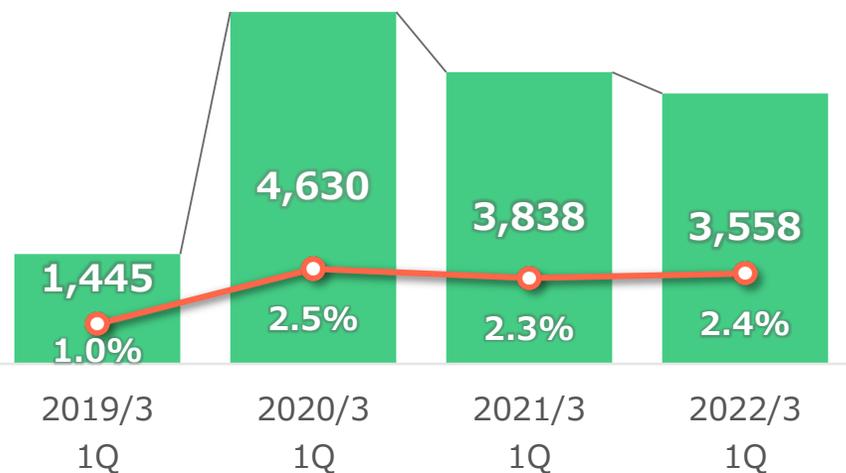
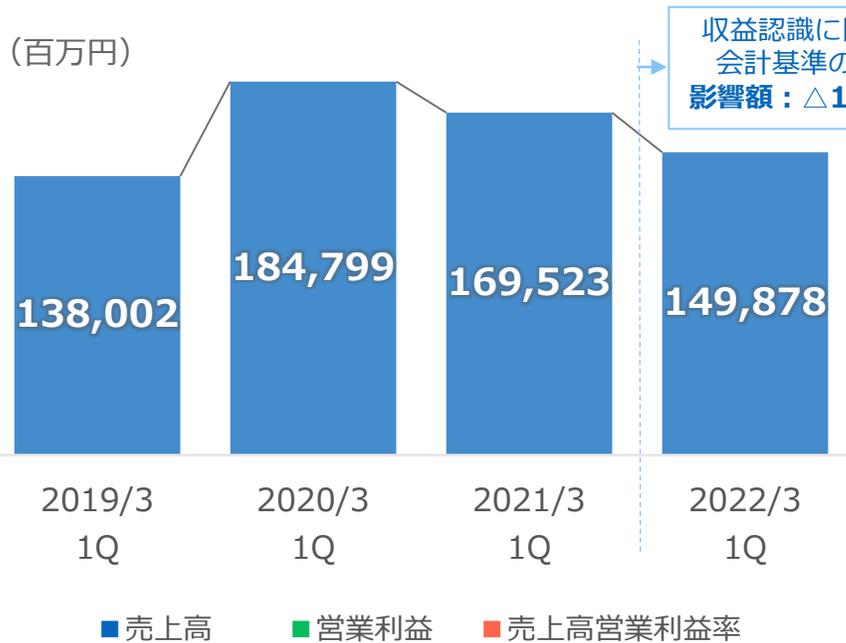
売上高構成割合

	2021/3 1Q	2022/3 1Q
ITインフラ流通	90.5%	89.8%
繊維	8.4%	8.7%
産業機械	1.0%	1.4%

営業利益構成割合

	2021/3 1Q	2022/3 1Q
ITインフラ流通	82.9%	81.0%
繊維	19.2%	16.6%
産業機械	△1.0%	2.8%

(百万円)



売上高 **149,878**百万円 (前期比△11.6%)

営業利益 **3,558**百万円 (前期比△7.3%)

PC出荷台数 **62.0**万台 (前期比△1.7%)

サーバー出荷台数 **1.1**万台 (前期比+5.7%)

サブスクリプション取扱高 **17,083**百万円 (前期比+4.0%)

iKAZUCHI(雷)取扱高 **3,496**百万円 (前期比+43.5%)

事業概況

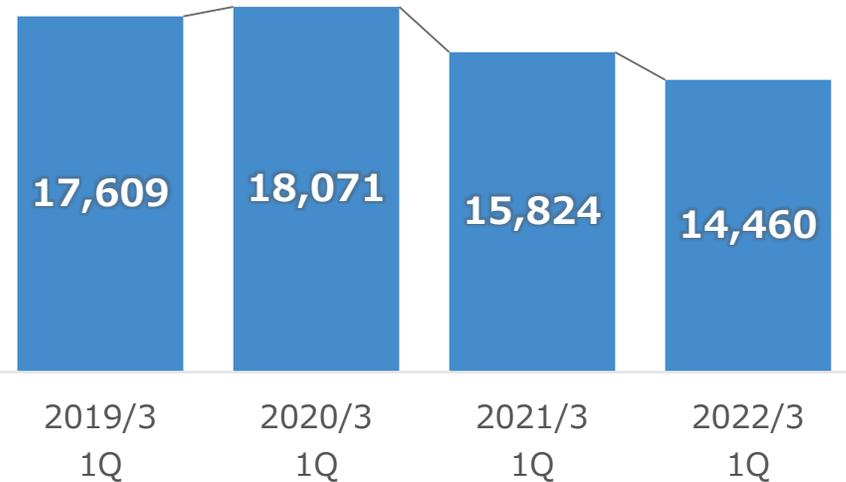
コーポレート 向け市場

- 企業・官公庁向けは、クラウド環境構築やサービス利用へのシフトを背景としてサブスクリプション型サービスの契約数は増加したが、全国的に大型案件が振るわずPC販売等は低調に推移
- 文教市場は前期からのGIGAスクール構想関連の継続案件により、前年同期に比べて販売が拡大

コンシューマ 向け市場

- 在宅用プリンターの販売が増加するなど、テレワーク・オンライン学習等の需要が継続しているものの、前期と比較してPCや液晶モニタ等の周辺機器の販売が減少

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



売上高

14,460百万円 (前期比△**8.6%**)

営業利益

729百万円 (前期比△**17.8%**)

事業概況

合繊・レーヨン部門

■ マスクや除菌シート向け合繊不織布の前期までの需要の反動により販売が減少したものの、建材用などの合繊原綿や環境負荷の少ないレーヨン素材が好調に推移

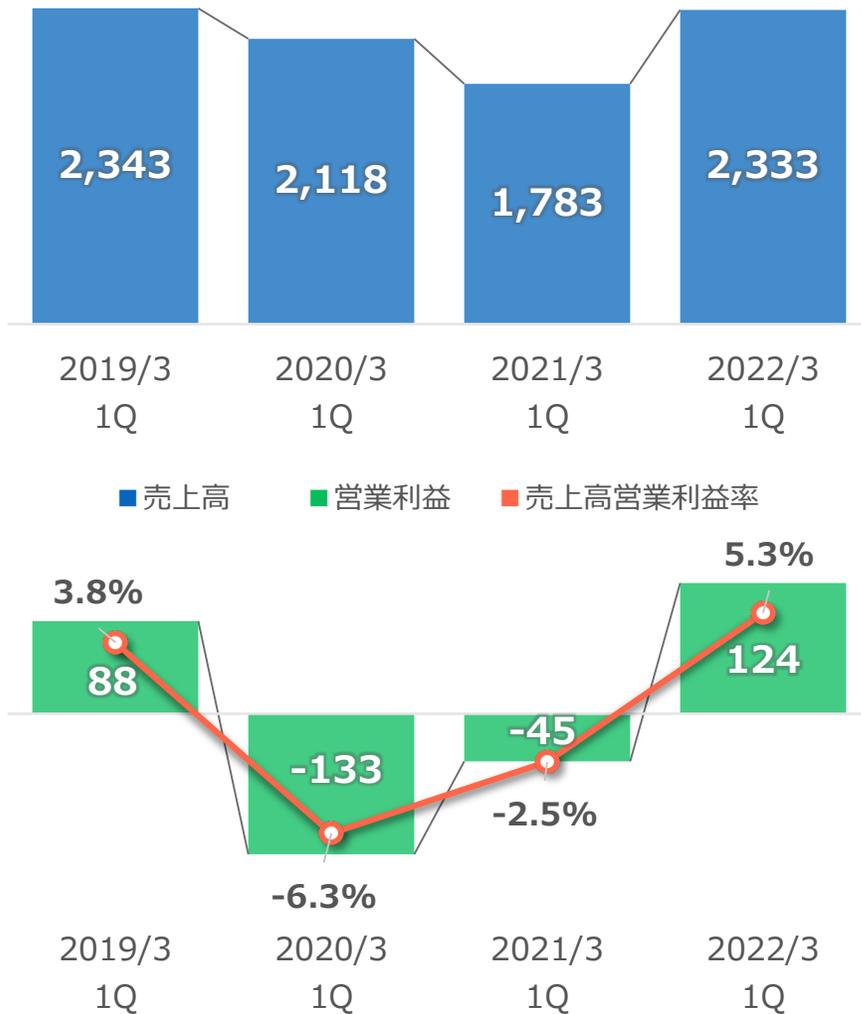
産業資材部門

■ 主力のテント・帆布等重布関連商品は、各種イベント中止、建築工事減少の影響により継続して低迷

衣料製品部門

■ 長引く外出自粛や小売店舗休業の影響により、カジュアル衣料の販売が苦戦

(百万円)



売上高

2,333百万円 (前期比+**30.8%**)

営業利益

124百万円 (前期比+**169**百万円)

事業概況

工作機械部門

- 日本工作機械工業会の4~6月受注総額は前期比117.7%増となる中、移動制限等の継続により主力の航空機・鉄道関連の回復は鈍く、受注高は前期比16.8%増加にとどまる
- エネルギー・インフラ業界向け出荷およびサービス売上増加により増収増益

自動機械部門

- 顧客の設備投資に慎重な姿勢は継続しているものの、受注高は前期比22.9%増加
- 複数台のライン売上もあり、実績は大幅に改善

2022年3月期 1Q 連結貸借対照表 (決算短信P4-5)

(百万円)	2021/3	2021/6	増減		2021/3	2021/6	増減
流動資産	331,461	274,522	△56,939	流動負債	230,519	175,858	△54,660
現金及び預金	32,058	51,193	+19,134	支払手形及び買掛金	188,483	140,810	△47,672
受取手形、売掛金 及び契約資産(※)	246,897	158,553	△88,343	短期借入金	15,255	14,427	△828
商品及び製品	32,580	46,191	+13,611	固定負債	23,916	24,801	+885
有形固定資産	39,172	39,126	△46	長期借入金	12,065	12,073	+7
無形固定資産	2,696	2,584	△111	負債合計	254,435	200,660	△53,774
投資その他の資産	10,426	10,153	△273	純資産合計	129,322	125,726	△3,595
資産合計	383,757	326,387	△57,369	負債純資産合計	383,757	326,387	△57,369

※前期は「受取手形及び売掛金」

受取手形、売掛金及び契約資産	246,897	→	158,553	△88,343	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	188,483	→	140,810	△47,672	DISの仕入債務の減少
借入金合計	27,321	→	26,500	△821	

2022年3月期 1Q累計 連結損益計算書 (決算短信P6)

(百万円)	2021/3 1Q		2022/3 1Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	187,315		166,862		△20,452	△10.9%
売上総利益	15,666	8.4%	14,465	8.7%		
販売費及び一般管理費	11,036	5.9%	10,071	6.0%		
営業利益	4,629	2.5%	4,393	2.6%	△236	△5.1%
経常利益	4,786	2.6%	4,521	2.7%	△265	△5.6%
特別利益	712 ※		97			
特別損失	128		0			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,290	2.3%	3,114	1.9%	△1,175	△27.4%

※前期特別利益

繊維事業海外工場の移転補償金 (665百万円)

【参考資料】 中期経営計画

- 対象期間 **2022年3月期～2024年3月期** (3カ年計画)

- 位置づけ **「将来にわたる発展を見据えた転換期」**

- ▶ 持続的成長に向けた『ビジネスモデル変革』への挑戦期間
- ▶ ESG視点での事業を通じた社会課題解決への貢献
- ▶ 未来を創る人材価値の最大化

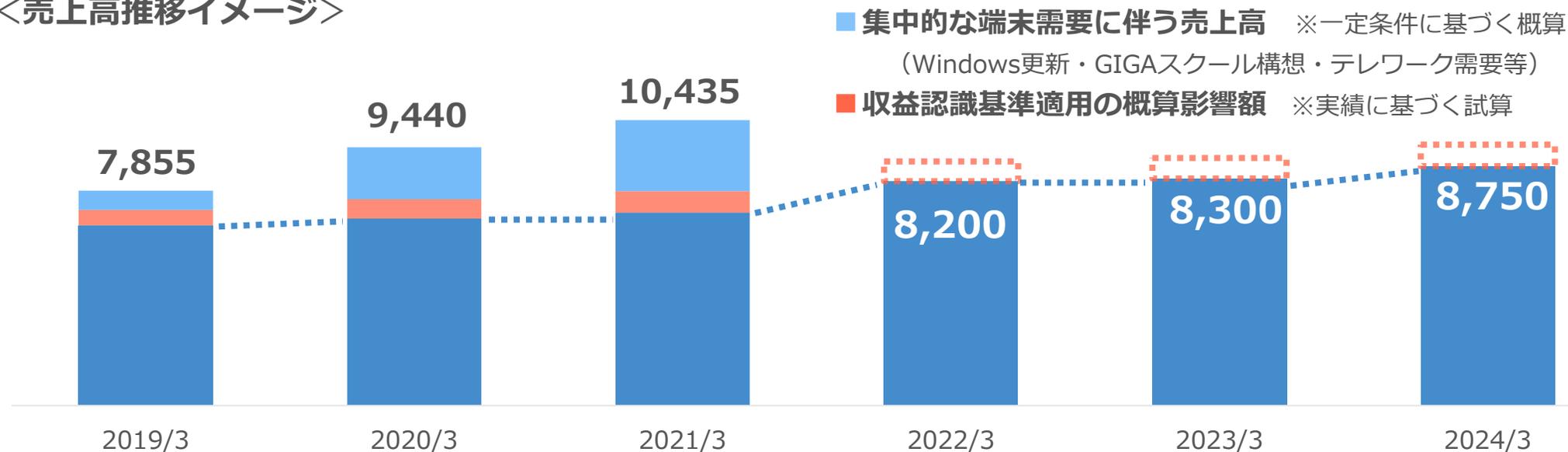
グループ 基本方針

- 01 次世代成長ドライバーの創出**
- 02 リーディングカンパニーとして新たな社会作りへの貢献**
- 03 経営基盤変革**

(億円)	2021/3 (実績)	2022/3 (計画)	2023/3 (計画)	2024/3 (計画)
売上高	10,435	8,200	8,300	8,750
営業利益	350	285	286	314
営業利益率	3.4%	3.5%	3.5%	3.6%

→収益認識に関する会計基準を適用

<売上高推移イメージ>



ROE 14%以上

自己資本当期純利益率
＜株主資本に対するリターン＞



株主資本コスト

8.6%

(現状の自社認識)

ROIC 11~12%水準維持

投下資本利益率 (※)
＜投下資本に対するリターン＞



WACC
加重平均資本コスト

7.0%

(現状の自社認識)

**持続的な
企業価値向上**

※税引後営業利益 / (純資産 + 有利子負債)

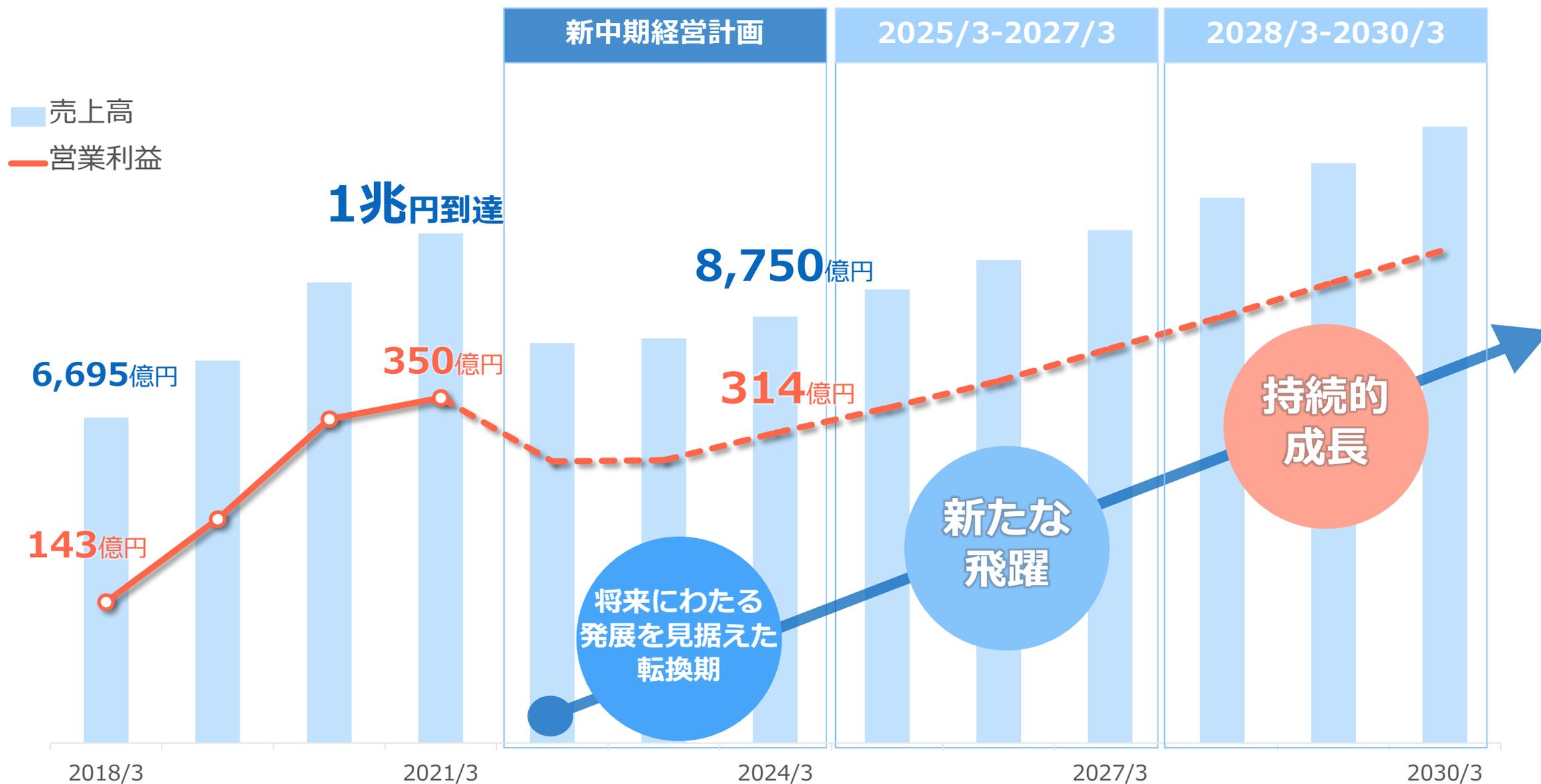
基本方針

- 株主還元の充実化を適切に図る
- 既存事業の持続的成長に向けた投資を継続しつつ、新規領域への成長投資を実施
- 一定の手元流動性を確保し、戦略的な商品調達や不測の事態に備える

<キャッシュ配分項目>

配当	既存領域への成長投資	新規領域への成長投資	自己株式取得	手元流動性の確保
<p>1株当たり60円 (中間配当含む) の安定配当を基本方針としてキャッシュ状況にあわせて増配なども検討</p> <p>2022年3月期 配当予想 中間30円+期末30円</p>	<p>既存事業の持続的成長に向けて設備投資・マーケティング・研究開発・人材採用などを行う</p>	<p>市場拡大が見込まれるDX関連領域を中心に新たな事業の柱を育てるべく業務提携やM&Aの検討を開始</p>	<p>市場環境に応じて機動的な自己株式の取得を検討</p> <p>上限20億円の自己株式を取得中 取得総数 上限 150万株 / 1.56% 取得期間 2021/5/14~2021/8/31</p>	<p>ITインフラ流通事業における戦略的な商品調達に伴う資金需要および不測の事態に備えた手元流動性の確保</p>

中長期的な成長イメージ

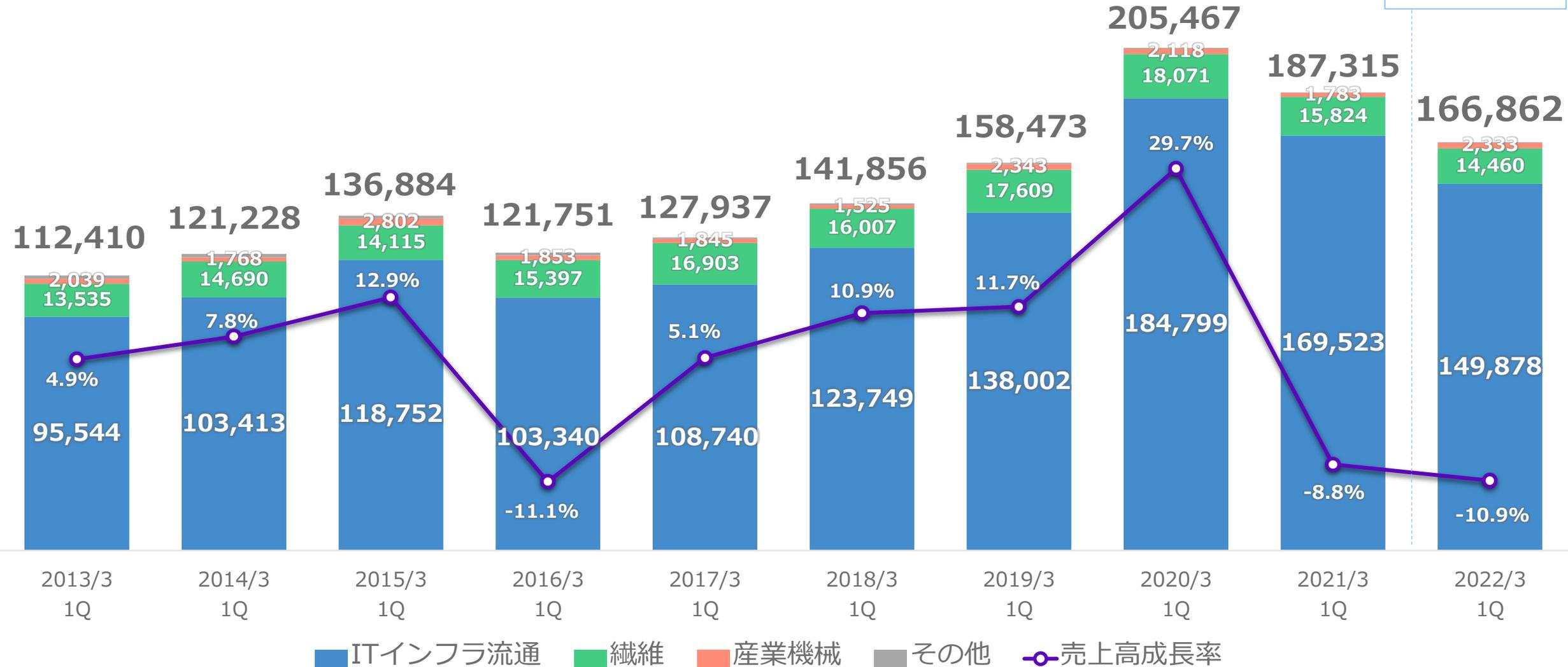


【参考資料】業績推移グラフ

連結売上高（1Q累計期間）

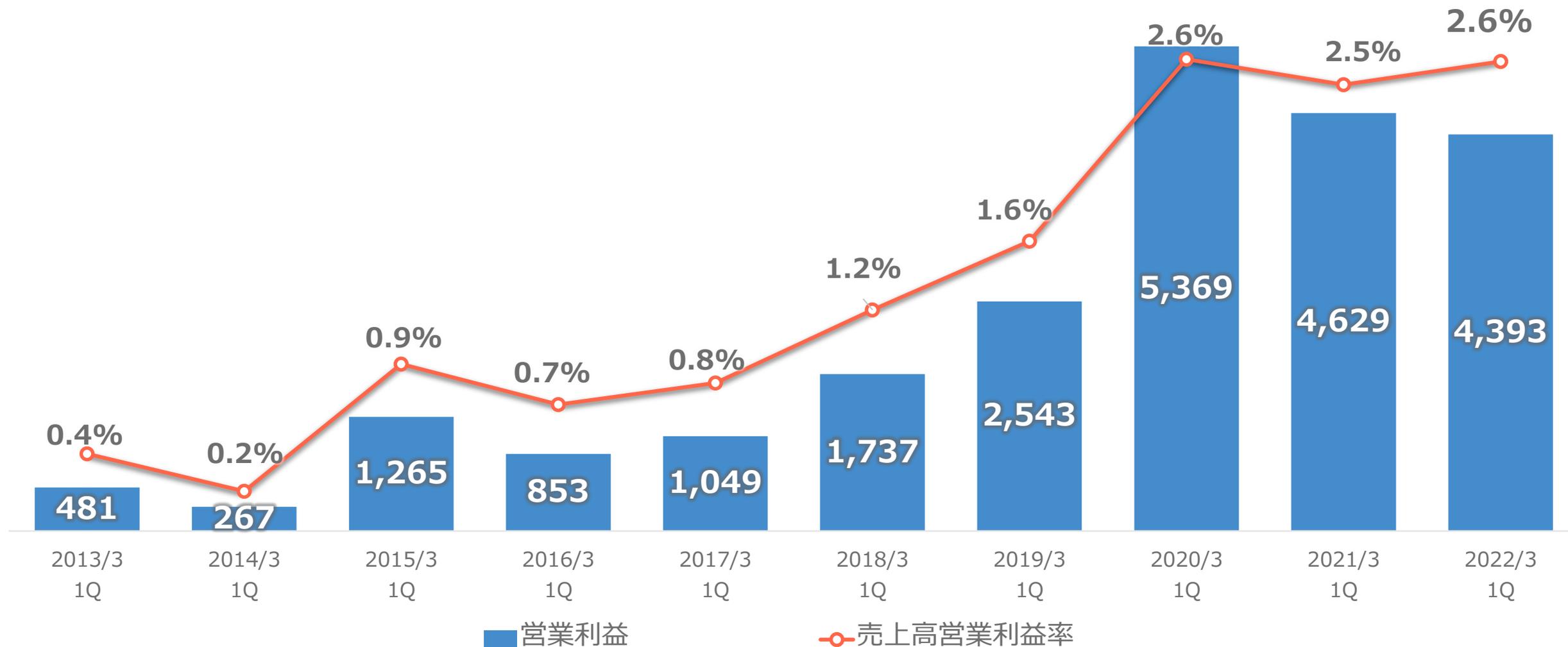
(百万円)

収益認識に関する
会計基準の適用
影響額：△17,378



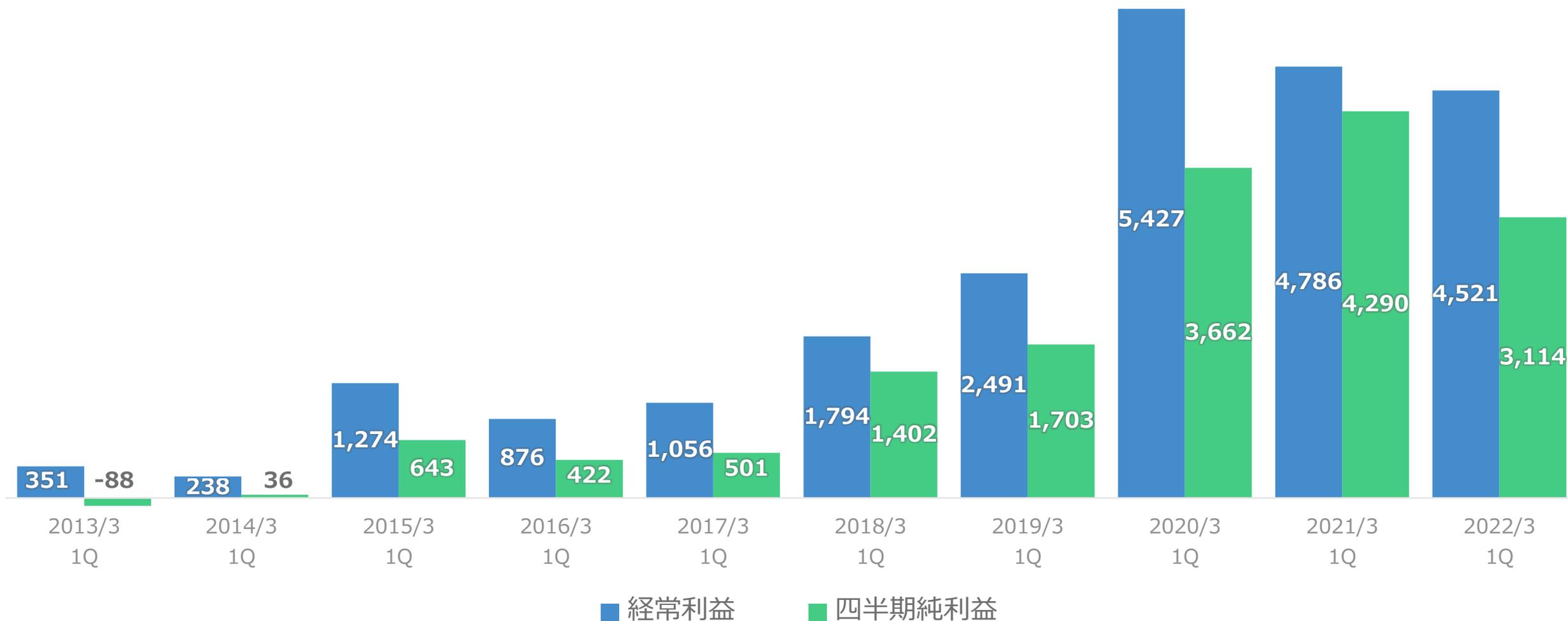
連結營業利益（1Q累計期間）

(百万円)



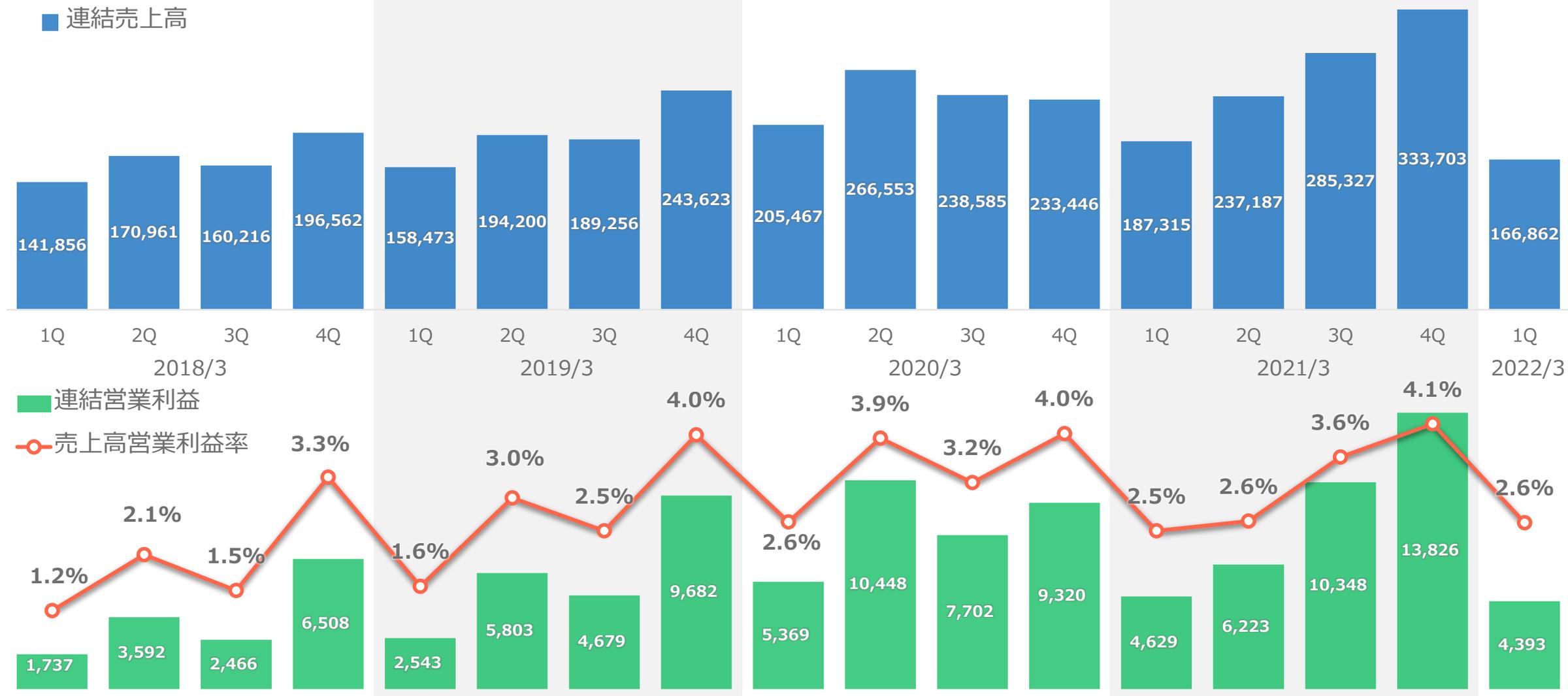
連結經常利益・連結四半期純利益（1Q累計期間）

(百万円)



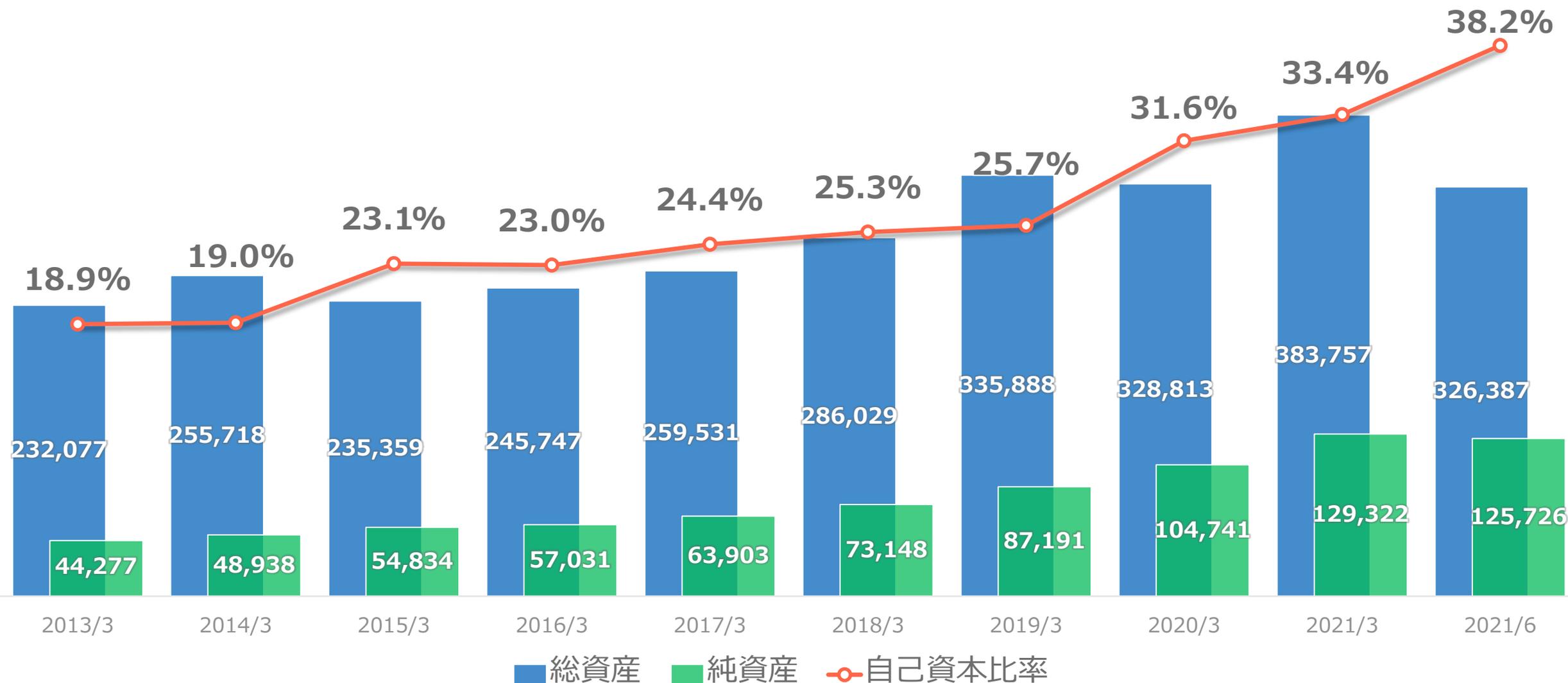
四半期別業績

(百万円)



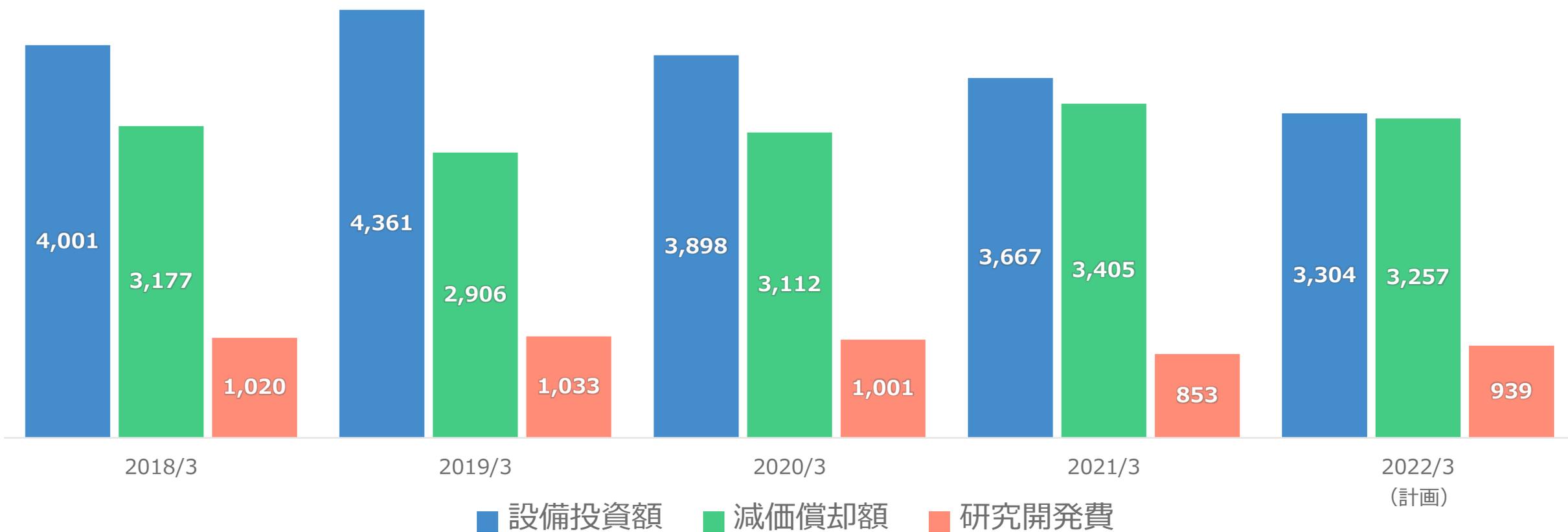
連結総資産・連結純資産・自己資本比率

(百万円)



設備投資額・減価償却額・研究開発費

(百万円)



<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ダイワボウホールディングス株式会社

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。